

2012年3月9日

各位

JX日鉱日石エネルギー株式会社

仙台製油所の生産再開について

当社（社長：木村 康）は、東日本大震災の影響で石油製品の生産を停止していた仙台製油所（所長：山口 亮）において、本格的に生産を再開しましたので、お知らせいたします。

仙台製油所は、3月11日の震災における地震と津波の影響により、約1年にわたり生産を停止しておりました。

このたび、関係者のご支援・ご協力を賜りながら、当社グループ一丸となり復旧作業に取り組んできた結果、本格的な生産再開を果たすこととなりました。

これにより、当社グループ全ての製油所が、震災以前の生産体制に復旧しました。

仙台製油所の復旧にあたっては、津波の影響を受けにくい場所への陸上出荷設備の移設、電気系統への津波対策などを講じており、今後はさらに、出荷設備の完全復旧や、新エネルギーの導入などを進めてまいります。

当社は、東北地方唯一の製油所である仙台製油所における石油製品の生産・供給を通じ、宮城県はもとより、東北地方の復興に貢献してまいります。

記

1. 仙台製油所概要

住所 : 宮城県仙台市宮城野区港五丁目1番1号
原油処理能力 : 14.5万バレル/日
操業開始 : 1971年7月

2. 復旧までの経緯

2011年 3月11日 東日本大震災により被災、稼働停止
5月 3日 暫定出荷設備(9レーン)による一部製品の陸上出荷再開
7月28日 復旧計画の発表
【コンセプト】 (1)一刻も早い生産再開
(2)災害対応力の向上
(3)新エネルギーの導入
9～10月 冬場の供給に向けた体制の整備（出荷設備を36レーンに増強・備蓄増強など）
2012年 1月14日 装置試運転開始
3月 9日 本格的な生産再開

3. 今後の取り組み

出荷設備の完全復旧（2012年2月現在37レーンを52レーンに増強、2012年秋完成予定）
事務所棟への新エネルギーシステム導入、メガソーラー建設検討 など

以上

(参考) 仙台製油所復旧に際する主な取り組み

(参考) 仙台製油所復旧に際する主な取り組み

【既に実施しているもの】

(1) タンクローリー出荷設備の東地区への移設

津波の影響により、製油所の西地区に位置していたタンクローリー出荷設備が甚大な被害を受けました。これを踏まえ、東地区にタンクローリー出荷設備を移設しました。同地区は、西地区より地盤面が高く、また、海岸との間に大型のタンク群を有することから、津波の影響が大幅に軽減されるものと想定しています。

※一部工事を継続しており、完成は2012年秋の予定です。



稼動を開始した東地区の新出荷設備

(2) 東西地区連絡橋の新設

製油所周辺の道路事情を考慮し、西地区から出荷設備(東地区)へのタンクローリー入出構を可能とするため、大型車両が通行可能な東西地区連絡橋を新設いたしました(2011年10月31日完成)。これにより、災害時の消防車両等の東西地区間の効率的な移動にも寄与します。



東西地区連絡橋

(3) 電気設備等の津波対策

建物1階部分にあった制御システムや電気設備が津波で水没したことにより、被害が発生し、製油所の復旧の大きな妨げとなりました。これを踏まえ、重要な制御システムや電気設備については、上層階への移設および建屋の水密性向上などの対策を講じました。



更新した制御システム

【今後実施するもの】

(4) 新エネルギーシステムの導入

本館事務所棟に、太陽光発電設備、燃料電池および蓄電池を設置し、平常時の省エネと環境負荷低減を図るとともに、万一の停電時においても、防災拠点としての事務所機能の維持を図ります。

また、製油所内に1MWクラスの太陽光発電設備(メガソーラー)を建設することも検討してまいります。